春田竹之丞

天

中村俊定文庫
文庫 18
681

宮城県図書館

中村俊定文庫

鬼鳥他

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛政七年卯秋

其石

凡例

一 [illegible]或い名府旧政の部
[illegible]い給[illegible]に[illegible]い求[illegible]
[illegible]へ一[illegible]に年月[illegible]

一 [illegible]集[illegible]後[illegible]年一
に[illegible]追加[illegible]

一 [illegible]集に[illegible]経過の[illegible]
[illegible]

一 清尾なる老い新を法る所を
より一家一点の新を加へた
一 巻のうちの思ふ所を名称の
自ら知る者未だ出ず

夢田のさ花 上

鉢の鶯

歸堂仙

加州になめ霸[キ]旅亀屋の郷主
多数客の便りうめ告人なる知れ行[二十一]
雲は風にさやさし旅にのゝ源氏い
きるは花ちるを道雀鶯も異れ細道
を来るうれしと歩るゝ

北海の義経に源氏傷つき敗
走の後を追ひ来り桜花
黄鸝の声ほのぼのと聞
ゆるころ友とともに
打連れうかれもとめ三十間堀乃
堂一世生涯無年に徒て素志
義へ為さく義経おのつから知るに
又無も他事もなきまゝ

同文の人々に手紙を送りて
そなたは安否もきそのまゝ母の御病
のあるまゝ再初歩の話を西の
一うるを安ずるこゝまゝ用事ます
三越のうちとひとむ手紙を
不生ずして事の生利をなしい聊
自己の指揮を自決さ自紙の
紙に書くまゝ俗語の要旨を示

さしぶる一字緑の雫刻を多ふのるる時
ゆゑ〳〵ぞ蓄妻にうて雨の防戎
頭巾を被るのかを者けるとのこと
謝て風雅のけひを作くり卿のもてを
失ふこと有り雅やを作るとりり
こうとけふやきく言のかまを被を
曳き遠とと見遠ものよ行る

世をよう水を地よく青田もけるふのう　五竹房

時しう梅雨の雨をうう先の　再和房
材木も弦器の通りを引あて　都麦
気をやた角ふそ成ぬう　桃里
家を合をくるる姫の行をけ　岐阜　葵乙
まるのぬ不年ゆをむう咲　再和
いさ知らんうくも時の目は新　松翔
名をふの一字もらふ以秋　以隆

ウ

ふこやの里にうつるに侍る　岐年　馬中

うの上はなをれかへるなる　再和

湖水をこぎ出て稜を過る　以帆

紫宸の時を太平　吟枝

碧瓦のけむりを育ける　其水

めづらしき春の竿を干揚る　李之

いまにやとゝ佳景の詩のこゝろ　栩文

さもおろかや此柳乃枝

扇子の舟を移しん　友字

春ほゝ〻明て田舎の舟を移しん　糸桂

春ほゝ〻明のあるも春の　野桂

春雨もこまに入やらに八卦をき　杜桂

あちこちの桂うの樹の　乙〻坊

降てゆふめてゆの雨の　逸三

柳にいろさはる孫生中旬　児イ

ヨ

形ちのお稚をこゝゝ中さて　寄香

一場こけみ糸ゆうれそつと

岐阜まているたうの又半なるを　可卜
常盤こうゝ山ゝまてゝ　東藩
いろ入さまりのゝ　入切通　吳雪
打もたる鯉の道さして　再和
常ゝいい日ゝ雪ゝ　尤明
ちれおゝ色ゝ　壺吟
ひゝやゝふゝ常ひのゝ　盤古
花瘡の秋ゝ　和佳

井の水ゝ五ゝ川のゝ水　贅名色　洞之
智ゝ義こうゝるゝ色ゝを　再和
自ゝいい色ゝ年ゝのゝ　涼河
おゝ色ゝさゝふに　楚石
千石の高ゝ時ゝ　可静
ちゝ色ゝ　如先
打とゝふゝ　望松　燈五
作ゝ　再和

退けのこるいたの蔭もあり　　茶摘
ほんのりとてうれしき雨　　三波
須磨と言語もかるるそちまち　　破叶
持佛にお灯ゑ生るうり
行くもまた身新いをめる　　新本　鞠花
根ふう富れあちこちに　　再和
ゆくみ乗りと傳掌に義まれ　　十瓜
ちとおるにうそ生きるの　　宇槌

とりあて開うる西の新まれと　　糸巻　相坊
うくひすの来て又一ねふ　　再和
世代の上にるるを　　文川
はうゆんの花よ此ふき出りの　　布田
むううう多田の神名おるき　　北村　一青
うちんも飛いきて鞠の太刀　　再和
華ふして和ふるい生れつか　　可程
紅源の成化をぬうちより　　淡古

やり水のうつくしく小舟くり行　長良　互雪
その象の風きたりたまる事　嘉和
うれしくも先のつれ侍りとりもち　蔭九
こゑほとゝぎすなる家桂まで　深海
鶯にもようこそ時をいつるとも　大垣　路俊
花四の雲ゝ　嘉和
文桂の月秋ゝ　有流
袷もてこそ二人つれ　指景

三ウ
おもかるゝやまんさをなる秋　文孫
立麦の集る嶋ちとつゝと　不序
はりつれて老侍ふる嶋そゝ　象流
袷ふるれ也ゝそゝ　霍之
ものゝ世ゝ市のわつらはるまて　風疋
うゝ世の義理を秋ゝ　笠古
爺はゝ義まゝ　文平
佳也雪ゝ　伽月

[illegible]　大垣　廣甫
[illegible]　春和
小女のりさとる　史冬
[illegible]　文斧
[illegible]　良坊
[illegible]　亞又
髮脱も日永よつもる　破夕
福岡[illegible]　何狂

年[illegible]　春井　流左
風[illegible]　春和
[illegible]　嵐有
[illegible]　扇先
[illegible]　杜橋
[illegible]　昇斗
[illegible]　閑ケ原　巴人
[illegible]　春和

[illegible]　二七〇〇年　慶羽
[illegible]　再和
[illegible]　岐阜　素堂
[illegible]　再和
[illegible]　我山
[illegible]　勉有
[illegible]　サヤ鼻　鴻古
[illegible]　再和

[illegible]　加沼田　見示
[illegible]　再和
[illegible]　北方　芙千
[illegible]　桃宇

あこがれ越路の山の行をゆきなれて
雪のひとうちぬれぬ袖をさはりあうえの宮
時ワすぎ雲よ雪田ふく風あにとをて
帰雁を友人錢の餞を与へたまへり
けふをゆきうたもそ途に千里ちこと
ぬるさをいひそにまこと外といひを
軽うるめ師恵あるよ いてやを命よ

祖翁をけふ蓮芙蓉ちの今も
うの時漂泊のふくよきてなまして
京ゆう友志ゝ山ちを脱寂い三年ち
のむしとをてもを今ちを直指の寺
また杖ちるの時ちをとて
涼しさ時旅をちを後に
うつをつをを
勝居 再和坊

越前

福井

[illegible]

里[illegible]杖[illegible]

[illegible]を[illegible]の花　再和尻

短亭[illegible]

[illegible]　地図

[illegible]本[illegible]

[illegible]の[illegible]　再[illegible]

[illegible]　李尺

[illegible]　宇朴

[illegible]　冬扇

[illegible]　牡車

[illegible]　東甫

[illegible]　里乙

[illegible]　兆市

[illegible]　攸之

行をうめ憂おもひ
もとゝや其供ら来りに
ニヲ
さつとゝ点ちうもの事共
森ちめ山奥も
法華ゝ山ゝ
法華ゝ山ゝ
ゝ
ちゝ
ちゝ
ちゝ

朝霞
寄友
逸志
拍二
鄰旨
柳条
隱友
野舟

如斗
左笠
李仲
圭枝
此園
呂水

ゝ
稿の
ニウ
君ゝ代の開ちゝ
十冊ゝの
遠ふ咲ちゝ
霞うゝめる

湖谷

あさ明やそ新らしく日和哉　再和房

加賀

月ふたをさきへ流て小根川、

越中

さくらゝの緋やそ秋も雪の厂、

旅泊の比

ほそ〳〵あやふ〳〵厂の秀、

越後

出雲崎

明神を伺ふ物の寂寥栗　以南

幽にのゝ風雨ふるの舟　再秀

さゝ二人藻ゝかひる鷺さゝく　且水

籐の果屑ゝ拂ひ分り　不及

きゝにゝふるゝ津も天社日　海扇

荒ふたがまゝ廊の門　呂也

ウ 降くさのちれい忍ぶ屋敷くさけ　探兎
行をやなんの家の外　恩舟
家形(ヤキ)移(イウ)ろ潘千て元とうせるを　節北
ふるへい安一家うの二里　文思
ちくくさ流を深く舟蔵て　古佛
くれ世の年紀ふ耳ふさ紅葉　芸舟
回の名を好ろいもとれ初るんら　史雲
已来行くちふ蔦くれの思　夏門

ちり絵の風ふうを抽ちり　千郭
ちくちめ多を袖ちかくせて　寛雄
姫ひもふまいやまち祇のまく　里遊
雲の音も行くふる表山　九市

寺泊

元禄のまれにちまりし世ふも
時ちりちくまり山陰ちる
生涯精舎ちりくく

つきぬ恋ゆゑ袖やしぼるらん　再和歌

寄手紙

おくるしの絵ぬいそとる雲　文紅

彩色を搦むれうう　再和歌

若馬ぶりの人と歌のきく　東業

五里もつくきゆふ　魅道

数も文ある家へ入る一章しむ　文二

きりとりて陸まん

自惜（ウシダ）為ふ禅の鞠も身はあき　玉姫

性もも仏はふく　芦橋

松書きたく小坂の布ひくり　文島

京祇ひとりに恋ひ年歯　指青

陰ふ雲ぬ鶯うよん　梅五

嘗戸よ遠のたやる春の紅　里桃

恋妨所のあとにちくと　竜枝

ふしまたらふ庭ていあ　九江

琴之
巴沙
雨釜
如風

名録

水音よあつさ忘れて蓮葉哉　侍
けりあるふるさとの帰も　桂堂
文二

久しの月筏よのせてしるもみる
ふるかや高を掛くい咲て居る　如風
薮入の眠りや系もさめかぬる　琴之
をとも野辺に枯枝の高さより　大漁
屋ふ入乃髪大なる押うふ　文弓
引板の音にふり向もきぬ鳥哉　雨釜
松ノ葉や先ふしくしれ作も又　九江
精進や寺ふしに引也　新枝
梅五

[illegible]や沢にもあまる水の音　雅雲
初ゆかの[illegible]や松のけさ　玉弟
[illegible]なるあしの[illegible]　芳樹
[illegible]やまつ垂の[illegible]　中嶋　里桃
[illegible]水の音　巴汐
[illegible]谷[illegible]岩[illegible]　東菓
[illegible]や里を[illegible]　玉祝
[illegible]魚の[illegible]水の色　文紅

[illegible]
[illegible]
[illegible]
西[illegible]に[illegible]
[illegible]や[illegible]　再房

八句表

[illegible]　菅児
[illegible]の[illegible]　再房

流し世のつきみひる重にして　和圭

紋日まして聟れ身もこゝまやら　玻丈

後のこつ都しき詮紋呼ふそ　撲巵

引基の他をいつる法佛　児啓

月も又更科山や停く山　志仙

あそふ小鳥も数くの姥　茶陵

名残

松つゝ葉もまつ前やきて小まへ　和圭

後の月松まきあけし風情多　可驍

菖蒲あやめ祝絵もりの都の風　児唐

山さゆや雪れゆ大の樽のたと　玻丈

糟くき様と世れ鳴りや名しくれ　中嶋　志仙

夜山や人先らし風字にかり　鶯児

名のゆかる桜のつぶりにて

水も出く桜の底まや多きを　房

地蔵堂

遠寺の鐘遠のおと

月ゆゑや降るさに雲の雪　乃

雲雨

杉の葉を抜に生る小雪の響　遠雪

夕日に雲も霞まぬ春の雨　真雪

菜の花の先の味ふて　一風

遠山寺の鐘下

春の海

春の鐘

佛ぞ知る如来を何仲

為眠

あらしかすめる霞の中の

市遊

かすみより菜の花出るうら

耕月

八重もゆるとくるる春の雲

里川

中よりうぐひす春の古い山

二蓋

春の世界ゆるを下行弟

正風

猪に田つくり　如件

三ヲ　こそもる日も　水ゆくこと　在

されを　湯ぬ　ゆ　ゆみの水　一

湯わてきけと　遠の中　年　作

十日　ふをいせ　安　安

穂垣のちも　えぬ　流　川

ひも　ふて　ひやら　荒

湯治　ふて　橋　の　簑

城の　なる　絵文　坊の　家　古

二ウ　流　ちり　ちも　やち　之　禮　訪　月

永に　さひ　ん　重　わ　ル　地　軽

西　ち　ふ　ふ　軍　ソヒ　し　ち　ル　地

あ　ち　ひ　お　ち　ル　来　ち　ち　流

年

名録

年　ち　年　ち　時　ち　厨　ち　ち　ち　登　鯉

ふち稽こそ流れたる名の男七夕　妙休
蓮とけさ毎を湖の一きもも　百風
うけるふの春にもまるふふねる　為腦
あとひる西川てえれと栗山ふ　二蓋
和ゆきや涼山をいつる春の　耕雨
老ふも花をちこひて仮寝ふ　市燕
鮒のかにる代の高の鼾ふ　芦風
お佛るや春を手まるよ高みた　里川

柿屋や野うる川も越し安　時習
松の緑屋や花色の菓子の中に　素流
枇さこや蕎麦よぬりし辛味汁　一風

吉田

みとり高き蕎を麦をあつけて
一きこ此風雅いうに川ちこう
金楊下にあこちて
ぬい文るも高しあ此高

郭公伝　あやめ草

ちるとも花のかをりに捨ぶね

短歌

枕もとに雲井の雁の夢をあり　風の行方

聲も小鳥も佳人の代　耳の分

上臈の旅装めづらしき　之方

あれ年ちるを勝ふるんやう　素性

時雨ふる身先十五夜　甫天

物もめでまし里月の物　鴨波

ふるもをかしくちるさくら　菊宇

哭やうのある　進あのふる　芳之

面影の立ちさかれる　松良

ちるし中りに　里月

師をあるをあるを　左流

去をかりくさ　以勝

[illegible]

楚秋　可因　涼浦　方　宇　月　睦　天

大[illegible]の五きのはつやとそ　彼
条清秋ふてはかなはしふ　侘
毒さうらうとして白ひうるに　把
世もうらうに赤ねことふき　孝

名残

いとよひも睦ふ為にそたうもふ　風向房
うるむ日や霞まぬ三年の鏡　之方

縦んとすれども　ろのこ形系図　茶道
緑雲れて雨の　あくひや　梅の雨　晴天
梅雪に枝のまたをさりやの　鴨陂
廣いより牧ひよりあ　ふりより　菊宇
藪咲や梅の出ふ　里てあし　多之
ふるあもあき中や　みを樣　里月
降るすれる　しの雪　古流
足袋をあるを　梅　川藤

引て足を樣のたくさむ　ひるの　涼浦
如にも足を地蒸あり　山
うけろふにそのつやの雨　鶏徒
樣をやおれもたあ寺門　東江
雨雲に新ひへる　陂涼
をを足をあ　山猫　松良

和納

一田より和納千ほを

中京氏山茶亭に枝をうつせ
花に松ふかるやまもしるべの月和　万

八句表

しるしる市紙掛ふて小雪ふる　文字
鶏ふる松のつゆ寒そや吸　春雪
月雫の打こぼるるまてに　仲氏
雪春を提ぎるやうにあり　雲平

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

名録

[illegible]　仲氏
[illegible]　東卜

秋の夜の夢の通ひ路　二好
幣自然とつゝみ松の葉　丁慶
ゆく末は遠く遠くて　文字

新涼

松韻洞　あききりてこそ

手作りて雪拂ふ下高き松　方

東溪亭　仝

洞庭の月やうかぶ牡丹　丶

短亭秋月

立ちまる人影さびて秋月　梅足

あらい岩角ふる川瀬　西方

何ちかふ物ゆゑやうの都にて　南溪

ものの秋ふみ見る色　文鋒

勅旨は君の為ふ稽もつゝく　公語

遠に立ちふる歌　文也

極楽ふ物ゝ[illegible]を敷をかきて　波生
極ふ[illegible]る田面[illegible]　鶴市
彼世[illegible]も教ゝ[illegible]ふり　李三
いつゝ教[illegible]も佛ノ方便　優鄙
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　里川
[illegible]れかゝ[illegible]ぬ　住ゝ
風[illegible]ゝ[illegible]ふる[illegible]　梅院
何ゝ[illegible]ゝ[illegible]　聖祖

面の日[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]次
[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]湖
面[illegible]人[illegible]　南枝
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　梅紀
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]舟
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　坊
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]

[illegible] 蓬
[illegible] 茶

名残

掃て捨ふ[illegible]ちり松葉　宗淵
[illegible]　文龍
[illegible]　里川
[illegible]　李三

[illegible]　春吹
[illegible]　柿吃
[illegible]　野風
[illegible]　梅親
[illegible]　佳水
[illegible]　鶯市
[illegible]　文鋒
[illegible]　文淵

移り来れる人あるべきものの身　坡牛
秋入や世をあきて孫ある社を祈毎　南枝
ふ仙や春もこゝろ咲ぬるて　忠舟
梅見
夢田まてい老ぬ付る時雨ぶ

三条

あるよのこゝを泳やりて千年
はるかゝをれ行ぶ
三条や泳ぎを出る蝦の雪　乃
くれる

あるは千鳥へ拾ふ此行
こゝはつゝのあ物まより
酒掃きはけるに成ぬる
くゝぶ一枝残生蕨ぬ
すてもうもうぬふて
山ぶ毛につゝ降る　乃
古ぬん
嵐山亭　あまうれ
えりつて求めぬ事や硯ぬ　八
静殿亭　仝

こゝ[illegible]の[illegible]にやどりし梅と雨　乃

[illegible]　一ゝ

[illegible]枝のみどりゆゑに雪ふる柳　東乃

[illegible]　[illegible]

[illegible]に[illegible]と[illegible]にあるに[illegible]て　芳千

[illegible]の[illegible]やうに[illegible]傳　文和

いつとても入江の[illegible]の[illegible]　静鼓

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　芳傳

[illegible]の[illegible]に[illegible]日星　山號

[illegible]枝も又[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]

[illegible]より[illegible]　柳園

一[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]て[illegible]乃[illegible]傳　求文

[illegible]の日しや[illegible]て下さる　見我

[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]　成禾

[illegible] 笑頌
[illegible] 名作
[illegible] 柳或
[illegible] 只見
[illegible] 等

名録

[illegible] 等子

[illegible] 鶴皮
[illegible] 山鹿
[illegible] 求交
[illegible] 芳清
[illegible] 柏湖
[illegible] 文和
[illegible] 柏波
[illegible] 少年 梅戎

姑の顔をうしろ見に行り　少年 見我

高山の湖にもうつりけり　呂升

雲雀や相明の空さ中の御く　成采

春風や寺川よ掛ふ佛の雪　栁円

世を捨ふつるへは涼し淵さして　只見

涼しさや高いところへ登れ海　二梅

夕さへを年月の覚ち迷ねる　来太

加茂

こゝろ清き年珍敷し
元日の所をそれ詠み給るゝ
そこに思ふ

かも茂より恵方にあるれはとて
下鴨の秋に来たれ
蓑しゝこの日は家ま先に
もれしく老の身も
いさめしるて

ゑく枝や　七八丁ばかりの所

百韻

雪ばかりやまさきてゐるやうせ　兼文

一二里をゆくへまつのかすみ　春和

袋菜は化粧ふるまに来にて　竹葉

世を鶯昌乃ばかりに　里桃

山川の貴ゐをゆふもあるく　撥

窪おなるもうるおおをを　川

まゝやふ物のをを　郎

毎のゝ家をゝ　抜山

千級の行ばかりあのと　紙露

いひ合せまて安ん　沢欽

鶏鳴をゝ行をゝ　白相

茨のもばかりふ雨ゝ　粒風

羽勝
荷鮭
味厚
かよ
可良
花紹
花尤
洞院

里郷
友桂
和曉
潤江
鶴生
菓之
きよ
完示

何ぶまてもおにくりぬ浦漬き
三月先きくしてきたの生
撥餅き眠りきやきと色やり
時き明きう但きぬう
廣沼のけにもおれけ町の敷
きりよ又鏡氣人下きれ
きりりと時四き泊明も
菜粥き いりき形のうみの

緑窓に宗与が風ぐ和りて　東枝
百立ちまりの雲晴れ　烏帽
はれ来るも遅桜咲　紅矢
けて来る朝日てい　梨乙
掃よせにはひらの雪　芳生
京近くなる陳の名残　平岐
ちる碎る碎て雲霧の中　幾秋
よりはるか初雪の　春風

古うるめ拾ふ仕付糸　北原
弟を乗せ軍馬へ　鉄甫
いつくまでも流て涯　軍馨
やくまをぬ軍の途　巴江
ふけうふ追鯨の蕾折かな　可無
田人をあの教ハ教ちら　雲谷
村を出て沢なる清て来ぬ　みえ
秋ふも五年ぶりの對面　谷雪

伊勢国多賀の里に住る人
まのふ市ヶ谷の日
牧車を作山ふ石義せてり
初識の法めの法弟度うり
されハこゝ和てい身とも
古い未辻るさ千ろあるこゝ
吸ふ法ふ水ぬむふ蔭の場
りふ平稲こゝいふてこの的

糸柳
拂明
似泉
程吾
竹甫
路波
梅畝
蕉花

きるこゝ法ふ石に居も乾いこゝり
こなやかこゝよ春ふ蔭こゝふ
人こゝふ羅のこゝ色こゝふこゝ世
小宮ふこゝ智恩ふこゝ法
聖も山も野ふ支配の二千石
むこゝ法ふ稲ふる 老子一帙
元稲ふこゝ法ふる洞ふり
紫こゝ言ふ引むけてある

可流
ちゝ
里仙
芹鼻
嘉仙
文貞
之祈
自適

そ径くと椿のおちし明なくて　ませ

しきせ似合のさそる学問　路二

ぬれつゝか手摺も月は良夜かな　李山

宝人よ茶うたも夕月ゝ咲く　翁る

うまおりの行にぬりてちくとよ　花翠

引つまつる　兄の婚り紬　を鳥

風呂敷へ包と忘れも我なしらふ　むえん

梅まくらしもゆすててそある　二木

帝といふをきゝと酔の咎めてへ　吉鳳

天狗料とても今はこゝら　礼二

春しらぬ末あんと浜まて磯の錦　和笑

やりし宣の汗か乾きし　二治

月影は志へて輪らさし白　牧仙

近年ぬえし多もあちこち　ゆん

陸りなふ槐りの横戸を松き縫まし　梨东

笠きあんまり利らし辛子や　左柳

[illegible]にみそいて　乘武
[illegible]　玉津
[illegible]　桃園
[illegible]　清柳
[illegible]　凡交
[illegible]　陸五
[illegible]　柳水
[illegible]　宇泉

[illegible]日和と　よ[illegible]
[illegible]　一川
[illegible]　夕陰
[illegible]　東川
[illegible]　洞雲
[illegible]　[illegible]
[illegible]　東石
[illegible]　うた

藏三蓋ゝ
相之捌けて
沸ふりの湯の指うけん
ゝゝゝて青ゝ明星
扇ゝゝゝゝゝ
翼ゝゝゝゝ
今ゝゝゝ清ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

雪波
寒海
雪思
有濤
玉雪
里心
鳥矢
文彩